

特別支援学校の生活単元学習の授業づくり及び学習評価の活用等の実態調査（報告）

片岡 愛（広島県立廿日市特別支援学校、広島大学大学院教育学研究科）

【目的】

特別支援学校の各学部における生活単元学習の実施状況（時間割、学習形態）、授業づくりの視点、領域別・教科別の指導との関連、学習評価の観点並びに授業改善及び教育課程の改善に向けた学習状況の評価の活用状況を明らかにする。

【方法】

調査名：「特別支援学校の生活単元学習の授業づくり及び学習評価の活用等の実態調査」

1. 対象 1都1府14県190校の特別支援学校の小・中・高等部の部主事等540名
2. 実施時期 平成30年2月～平成30年3月
3. 内容 調査項目と回答方法をTable 1に示す。

【結果】

1. 回収数は264名、回収率は49%である。

Table 1 質問紙の調査項目と回答方法

調査項目	回答方法
学校及び回答者	選択技法
生活単元学習の実施状況	多肢選択法、自由記述法
生活単元学習と領域別・教科別の指導との関連	多肢選択法、自由記述法
生活単元学習における児童生徒の学習状況の評価	多肢選択法、自由記述法
年間指導計画の改善に向けた取組	多肢選択法、自由記述法
その他	自由記述法

2. 生活単元学習の実施状況について

(1) 生活単元学習の実施状況及び授業の時間割の位置付け：小学部98.9%、中学部98.3%、高等部89.0%で実施していた。時間割の位置付けについては、各学部ともモザイク型で実施している場合が多く（小学部55.1%、中学部66.7%、高等部62.5%）、続いて、小・中学部は带状（小学部37.1%、中学部25.0%）で実施している結果となった。

(2) 生活単元学習の授業を実施している学習グループ：各学部ともに、学年及び学級のグループで実施していることが分かった。両方ともほぼ差異はない結果となった（Fig. 1）。

(3) 一単元当たりの平均授業時間数：年間授業時間数と年間の実施単元数から一単元当たりの平均時間数を求めた（Table 2）。また、望ましいと考える一単元当たりの授業時間数（Table 3）と比較した。小学部は概ね一致していたが、中高等部は2～3時間多く実施している結果となった。

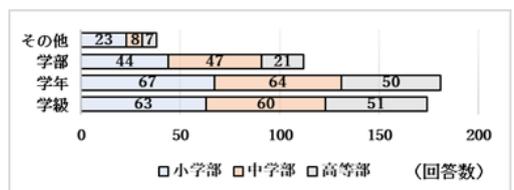


Fig. 1 授業を実施している学習グループ（N=250）

Table 2 一単元の平均授業時間数（N=211）

学部	小学部（低）	小学部（高）	中学部	高等部
時間数	9.4	10.8	13.2	12.4

Table 3 望ましいと考える一単元当たりの平均授業時間数（単位時間数）（N=211）

学部	5時間以下	6～10時間	11～15時間	16～20時間	21～30時間	30時間以上
小学部	5.7%	41.4%	21.4%	18.6%	10.0%	2.9%
中学部	5.3%	40.0%	18.7%	12.0%	18.7%	5.3%
高等部	7.6%	34.9%	22.7%	22.7%	9.1%	3.0%

3. 生活単元学習の授業づくりについて

(1) 授業づくりをする上で重要と考える事柄：結果をFig. 2に示す。

小・中・高等部ともに上位2つの回答は、「児童生徒が主体的に学ぶ意欲を高める単元（授業）の展開」、「児童生徒の生活に即した生活への応用・発展を促す単元（授業）の展開」であり、単元の展開を重要視していた。

(2) 生活単元学習の単元展開を考える際に参考とするもの：結果をFig. 3に示す。

小・中・高等部ともに、最も多かった回答は、「年間指導計画」であり、年間指導計画に基づいて単元展開を検討していることが明らかとなった。

次いで多かった回答は、「授業者の打合せ等」であり、チーム・ティーチングで授業を実施することが多い特別支援学校において、担当者間の毎回の授業の確認は欠かせないものであることが明らかとなった。

(3) 「学習内容表」の有無と見直しについて：結果をTable 4に示す。

学習内容表を作成している又は作成中であるということについては、小学部19.1%、中学部23.2%、高等部20.5%という結果になった。また、作成を予定している、作成を検討したいという回答についても、小学部5.6%、中学部12.8%、高等部12.9%という結果となった。さらに、学習内容表があると回答した学校のうち、見直しを行っているという回答は、小学部64.3%、中学部81.3%、高等部84.6%であった。

(4) 「学習内容表」の有効性について：結果をFig. 4に示す。生活単元学習の授業を系統的・計画的に実施する上で、非常に有効又はやや有効とする回答は、小学部76.7%、中学部81.3%、高等部78.1%という結果となった。

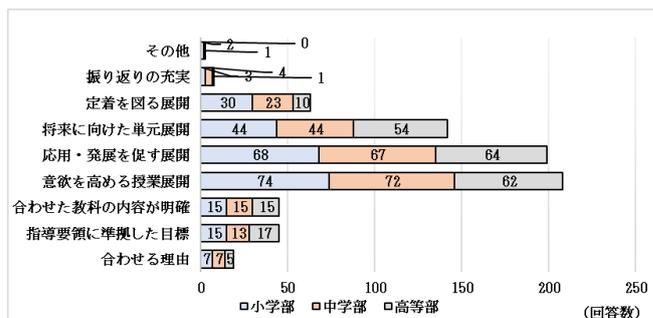


Fig. 2 授業づくりをする上で重要と考える事柄（N=250）

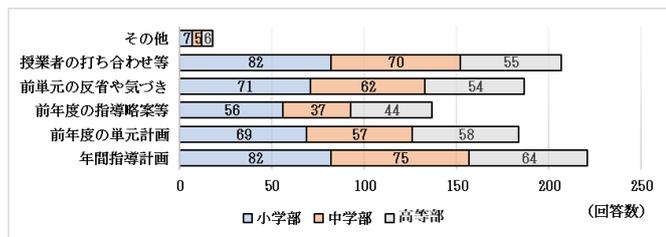


Fig. 3 単元展開を活用する際に参考とするもの(N=256)

Table 4 学習内容表の有無について (N=253)

	ある	ない	作成中である	作成を予定している	作成を検討したい
小学部	15.7%	75.3%	3.4%	1.1%	4.5%
中学部	18.6%	64.0%	4.6%	0.0%	12.8%
高等部	17.9%	65.4%	3.8%	2.6%	10.3%

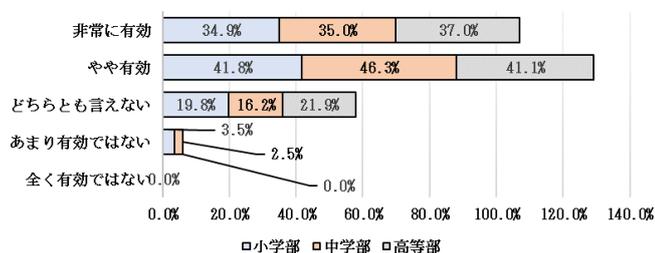


Fig. 4 「学習内容表」の有効性について (N=239)

4. 領域別・教科別の指導との関連について
 小・中・高等部ともに「とても関連している」「やや関連している」の回答の合計が80%を超えていた (Table 5)。

5. 生活単元学習における児童生徒の学習状況の評価について

年間を通じた生活単元学習の学習状況の評価について、指導要録に「生活単元学習」の欄を設けて評価を記入している場合は、小学部56.2%、中学部54.1%、高等部61.6%という結果となった。

一単元ごとの学習評価の対象は、小・中・高等部ともに「単元の目標」の達成状況が最も多い一方、「一単元ごとの学習評価はしていない」とする回答が21.6%から34.9%までと多い結果となった (Table 6)。

一単元ごとの学習状況の評価を行っている場合の評価方法を問う設問については、「単元の目標」及び「教科別・領域別の目標」の達成状況ともに「個人内評価」とする回答が最も多く、次いで「観点別評価はしていない」という結果となった (Fig. 5、Fig. 6)。

Table 5 領域別・教科別の指導との関連 (N=250)

学部	とても関連している	やや関連している	どちらとも言えない	あまり関連していない	全く関連していない
小学部	38.2%	48.3%	10.1%	2.3%	1.1%
中学部	35.3%	55.3%	7.1%	2.3%	0%
高等部	28.9%	52.7%	15.8%	2.6%	0%

Table 6 一単元ごとの学習状況の評価 (N=169)

学部	「単元の目標」の達成状況の評価	「領域別・教科別の目標」の達成状況の評価	「単元の目標」の達成状況及び「領域別・教科別の目標」の達成状況の評価	一単元ごとの学習状況の評価はしていない
小学部	69.2%	1.5%	7.7%	21.6%
中学部	54.1%	3.3%	11.5%	31.1%
高等部	60.5%	0.0%	4.6%	34.9%

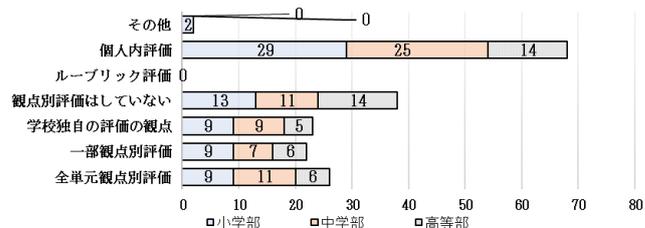


Fig. 5 「単元の目標」の達成状況の評価を行っている場合の評価方法 (N=131)

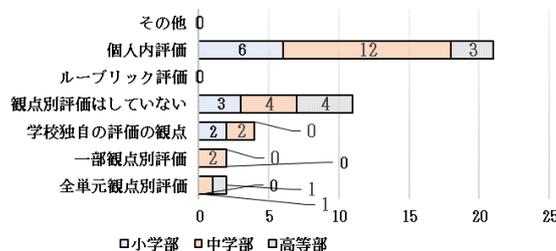


Fig. 6 「領域別・教科別の目標」の達成状況の評価を行っている場合の評価方法 (N=31)

6. 年間指導計画の改善について

生活単元学習の年間指導計画を改善するための校務分掌又は校内組織は、54.6%で設置されていた。また、改善するためのスケジュールについては、60.3%で明確になっていた。

【考察】

主体的・対話的で深い学びを実現する生活単元学習を行うため、単元の展開を重視して、領域別・教科別の指導と関連させながら授業を実施していることが明らかとなった。

学習評価については、「単元の目標」の達成状況を指標とし、評価方法として個人内評価を主な手段として採用し、実施されていることが明らかとなった。内面の評価を捉えることは重要であると考えられるが、可能な限り主観による評価を排除するため、評価の観点を明確にすることが重要であると考えられる。

一方で、調査結果からは、一単元ごとの学習評価を実施していない割合が各学部とも高い (20%以上) ことや、組織的な年間指導計画の改善が課題であることが明確になった。

生活単元学習の年間指導計画を改善するため、学年学部間で系統性のある単元計画の作成・評価・見直しを確実に行うとともに、それを年間指導計画の作成に生かし、さらに年間指導計画を年度途中、年度末等で定期的に見直す改善スケジュールを明確にすることが重要であることが明らかとなった。

年間指導計画を作成したら、見直しを年度末にのみ行うのではなく、年度途中で見直す機会を改善スケジュールに取り入れることは、教育課程の改善のPDCAサイクルの視点において重要であると考えられる。

また、授業改善と教育課程の改善を両輪とするためには、単元計画や指導略案の様式を統一すること、授業実施・評価の手順や学習評価を踏まえた年間指導計画見直しの手順を明確にすることなど、教職員が共通理解して授業改善等を進めることが可能となる組織的な枠組が必要であると考えられる。